



株式会社東陽テクニカ (東証プライム：8151)

2026年9月期第1四半期 決算説明資料

2026年2月13日

“はかる”技術で未来を創る

 東陽テクニカ

1. 2026年9月期第1四半期 決算状況
2. 受注高・受注残高
3. 2026年9月期 通期業績予想
4. 株主還元
5. 中期経営計画“TY2027”の進捗
6. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

1. 2026年9月期第1四半期 決算状況

2026年9月期第1四半期 決算ハイライト

(単位：百万円)	2025年9月期 Q1実績	2026年9月期 Q1実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	6,223	6,646	+423	+6.8%
売上総利益	2,706	3,033	+327	+12.1%
営業利益	▲182	▲181	+1	-%
営業利益率	▲2.9%	▲2.7%	+0.2P	-
経常利益	▲87	▲36	+51	-%
当期純利益	▲134	▲122	+12	-%

✓ 売上高：前年同期比 6.8%増

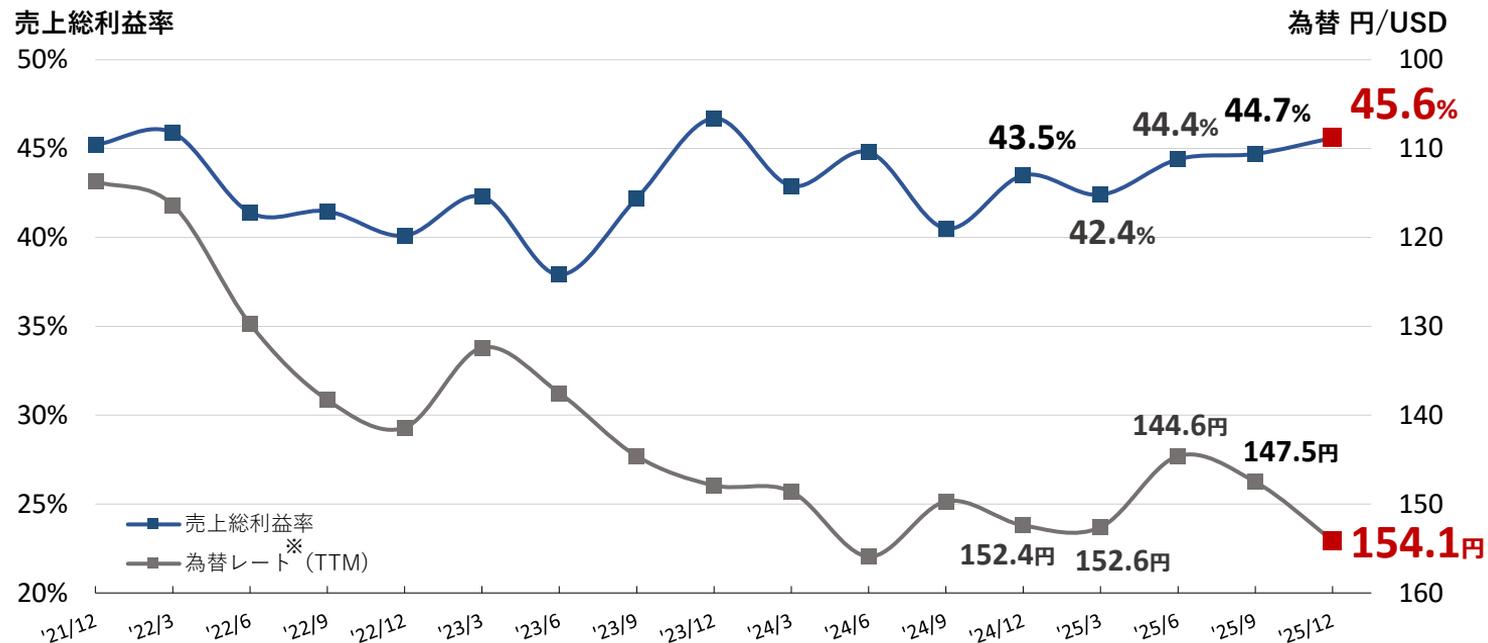
- 先進モビリティ事業においてEV充電関連の大型案件、EMC/大型アンテナ事業においてEMCシステムの大型案件を計上するなど、主力事業は前年同期を上回って推移し、**全体では期初計画どおりの進捗**

✓ 営業利益：前年同期並み

- 売上高の増加と売上総利益率の上昇により、売上総利益は増加
- 持続的な成長に向けた人的資本投資として実施している給与水準の引き上げと、地域再開発により2029年に移転が予定されている新本社関連費用の発生などにより販管費が増加したが、計画どおりに前年同期並みの営業損失に
- 販管費の増加については期初計画に織り込み済みで、**売上高はさらに伸長していく見通しであることから、通期では計画どおりの利益を達成する見込み**

為替と売上総利益率の推移

売上構成の改善により、売上総利益率は**45.6%**に（前年同期比+2.1p）

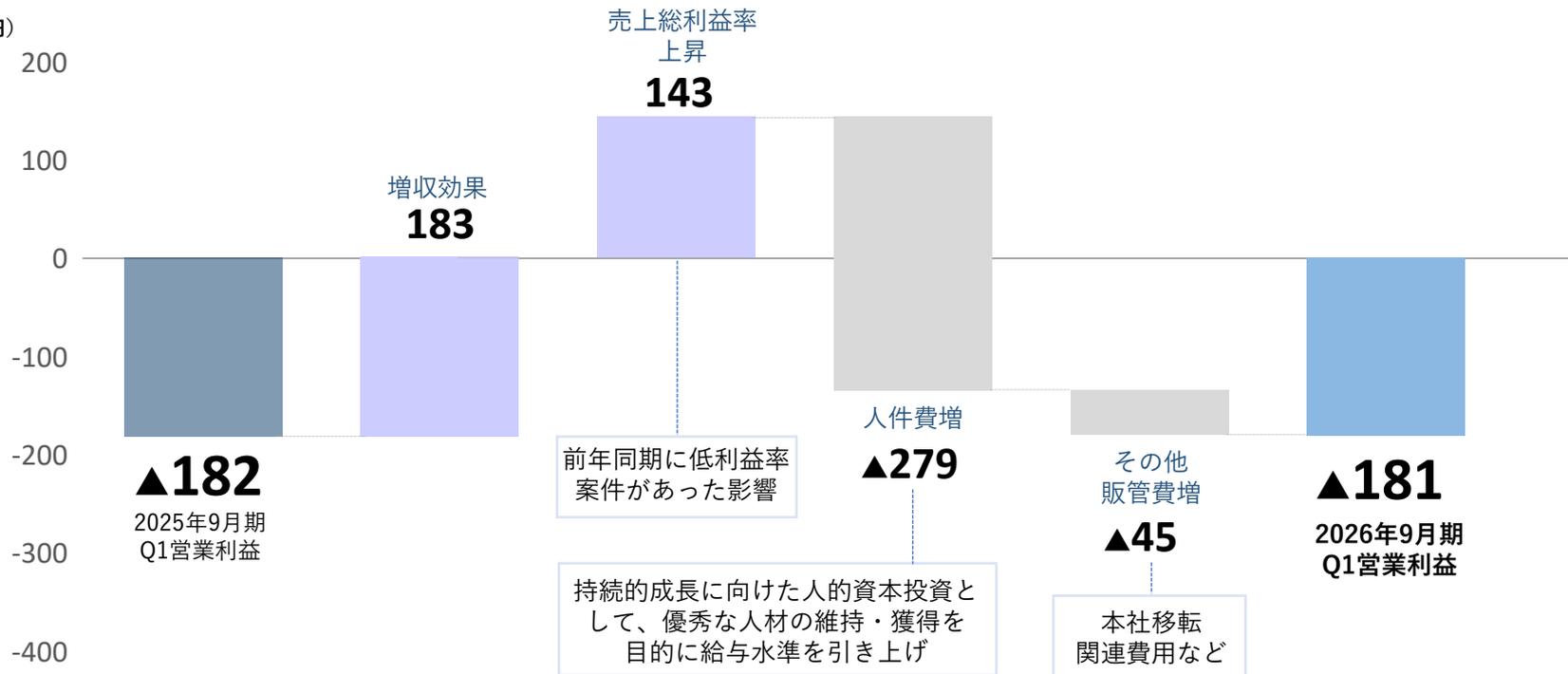


※3ヶ月間ごとの平均レート

営業利益増減要因（対前年同期比）

増収効果および売上総利益率上昇により売上総利益は増加、
戦略的な人的資本投資などによる販管費増加に伴い営業利益は前年同期並み

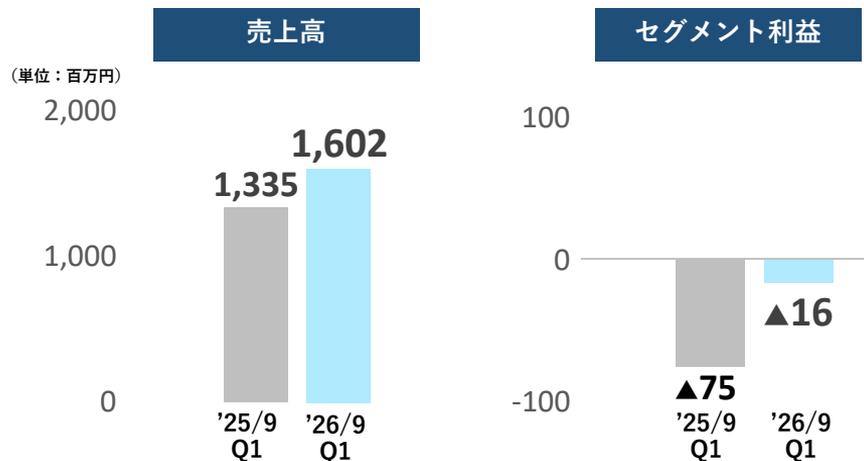
(単位：百万円)



セグメント別 売上高／利益分析

先進モビリティ

(単位：百万円)	2025年9月期 Q1実績	2026年9月期 Q1実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	1,335	1,602	+267	+20.0%
セグメント利益	▲75	▲16	+59	-%



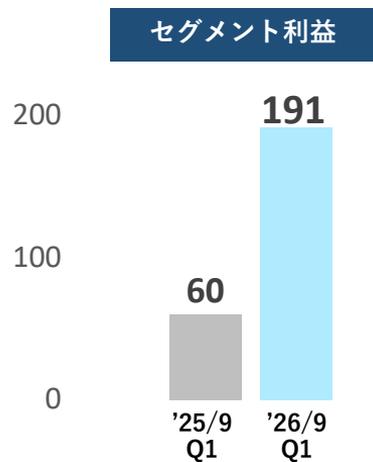
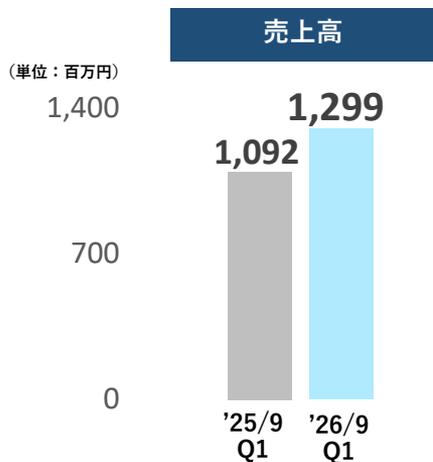
事業概況

- 前期に計上を予定していたEV充電関連の大型案件が当期に計上されたことで売上高は増加
- 人件費や研究開発費が増加したものの、前年同期に比べセグメント損失は改善

セグメント別 売上高／利益分析

脱炭素／エネルギー

(単位：百万円)	2025年9月期 Q1実績	2026年9月期 Q1実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	1,092	1,299	+207	+19.0%
セグメント利益	60	191	+131	+217.4%



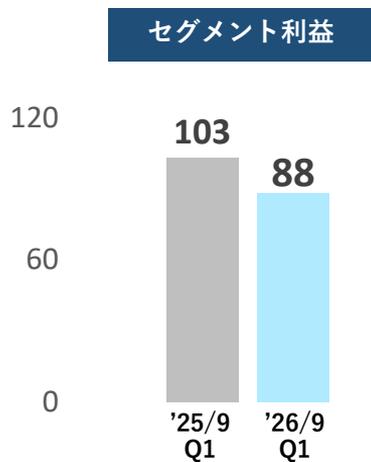
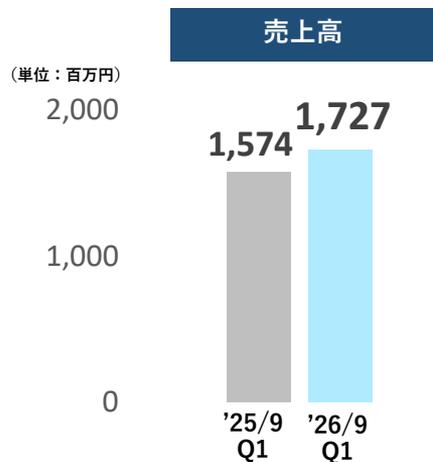
事業概況

- 水素関連が好調だったほか、電気化学測定システムも期初計画を上回って推移し、売上高は増加
- 売上高の増加、売上総利益率の改善によりセグメント利益は大幅に増加

セグメント別 売上高／利益分析

情報通信／情報セキュリティ

(単位：百万円)	2025年9月期 Q1実績	2026年9月期 Q1実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	1,574	1,727	+153	+9.8%
セグメント利益	103	88	▲15	▲14.4%

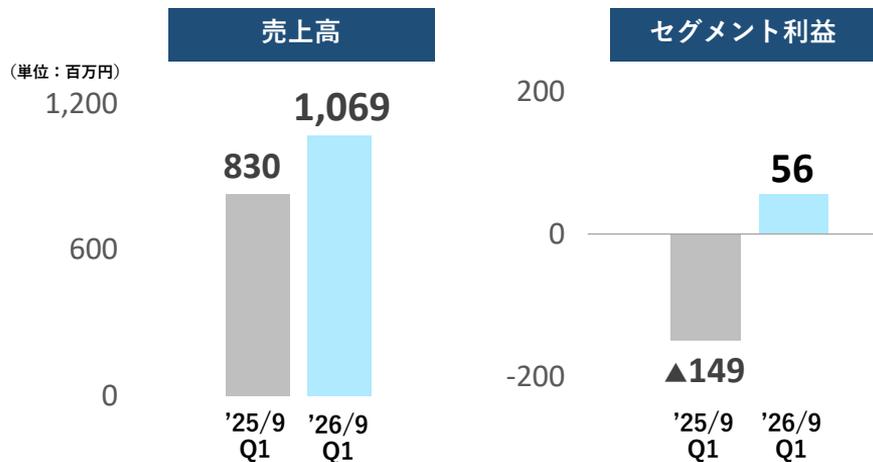


事業概況

- 主力の大手通信事業者向けネットワーク性能試験製品やサイバーセキュリティ関連製品が堅調に推移
- 一方で、人件費の増加などによりセグメント利益は減少

EMC／大型アンテナ

(単位：百万円)	2025年9月期 Q1実績	2026年9月期 Q1実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	830	1,069	+239	+28.7%
セグメント利益	▲149	56	+205	—%



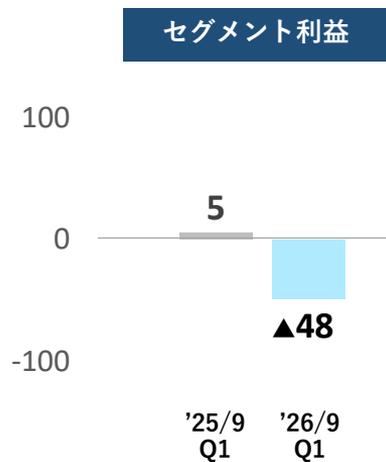
事業概況

- 大手自動車メーカー向けEMC試験システムの大型案件を計上したことにより売上高は増加
- 前年同期に計上していた新製品開発費が減少したことで、セグメント損益は黒字に転換

セグメント別 売上高／利益分析

その他事業（「防衛／海洋」「ソフトウェア開発支援」「その他」）

(単位：百万円)	2025年9月期 Q1実績	2026年9月期 Q1実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	1,390	947	▲443	▲31.9%
セグメント利益	5	▲48	▲53	－%



事業概況

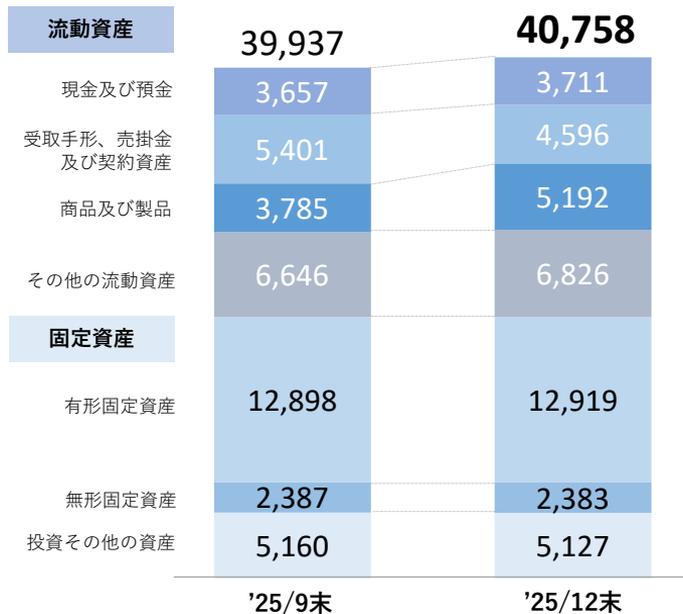
- 防衛／海洋事業は複数案件で納期が遅延し、売上高が減少。売上高の減少により、前年同期に比べてセグメント損失も増加
- ソフトウェア開発支援事業は、ゲーム開発用バージョン管理ツールなどのサブスク契約や保守契約の更新が堅調に推移し、売上高は前年同期並み。価格改定や支払い通貨の切り替えにより、セグメント利益は増加

連結貸借対照表 主要項目

総資産

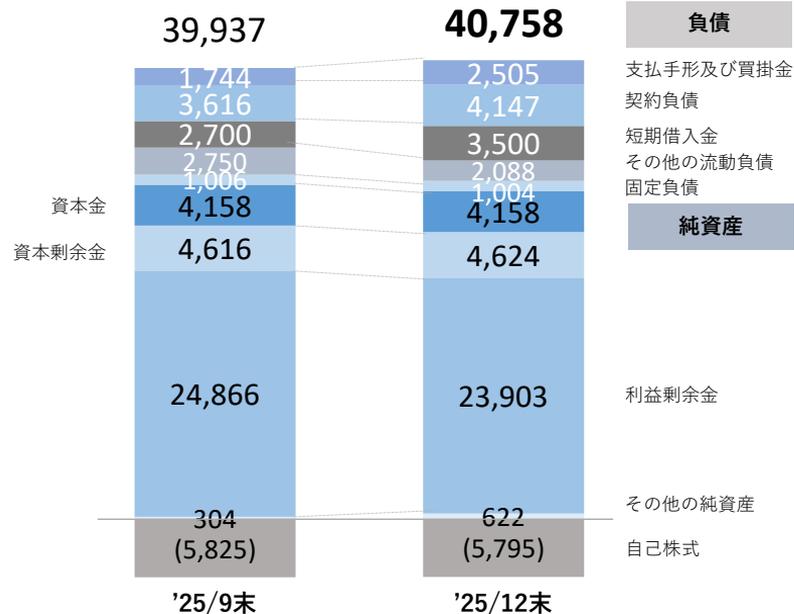
- 流動資産：「商品及び製品」「その他の流動資産」が増加、「受取手形、売掛金及び契約資産」が減少
- 固定資産：投資その他の資産の「投資有価証券」が増加、「繰延税金資産」が減少

(単位：百万円)



負債・純資産

- 負債：「支払手形及び買掛金」「契約負債」「短期借入金」が増加、その他の流動負債の「未払法人税等」「賞与引当金」が減少
- 純資産：「その他の純資産」が増加、「利益剰余金」が減少



2. 受注高・受注残高

第1四半期は計画どおりに推移し、通期では前期を上回る受注高となる見込み

- ✓ **受注高：前年同期比28.9%減**
 - ・防衛関連で最大規模の案件を受注した前年同期には及ばないものの、**期初計画どおりに推移**。今後、受注高が伸びる見通しとなっており、**通期では前期を上回る見込み**
- ✓ **受注残高：前年同期比16.0%増**
 - ・前期からの受注増加や案件の長期化により**前期末から大きく増加**

(単位：百万円)	2025年9月期 Q1実績	2026年9月期 Q1実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
受注高	11,992	8,527	▲3,465	▲28.9%
受注残高	22,842	26,506	+3,664	+16.0%

セグメント別 受注高／受注残高分析

(単位：百万円)		'25/9 Q1実績	'26/9 Q1実績	前年同期比		事業概況
				増減金額	増減率	
先進モビリティ	受注高	2,608	1,937	▲671	▲25.7%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 振動騒音計測関連や自動運転関連の特需があった前年同期には及ばなかったものの、エアモビリティ関連の大型受注があったほか、モーター試験関連も堅調に推移し、受注高は期初計画を上回る ■ 前年同期に比べ受注高は減少したものの、期初の受注残高が多かったため受注残高は増加
	受注残高	6,092	7,321	+1,229	+20.2%	
脱炭素／エネルギー	受注高	1,783	1,342	▲441	▲24.8%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 燃料電池関連、電気化学関連において、顧客都合により受注時期が後ろ倒しとなった案件があり、受注高は減少 ■ 売上高が増加する一方で受注高が伸びなかったため、受注残高も減少
	受注残高	2,803	2,673	▲130	▲4.7%	
情報通信／ 情報セキュリティ	受注高	1,942	2,315	+373	+19.2%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 主力製品の切り替えを進める情報通信分野はほぼ計画どおり、自社開発のパッケージキャブチャシステム「SYNESIS」は堅調、サイバーセキュリティ分野は好調に推移したことで、全体の受注高は増加
	受注残高	4,104	4,020	▲84	▲2.0%	

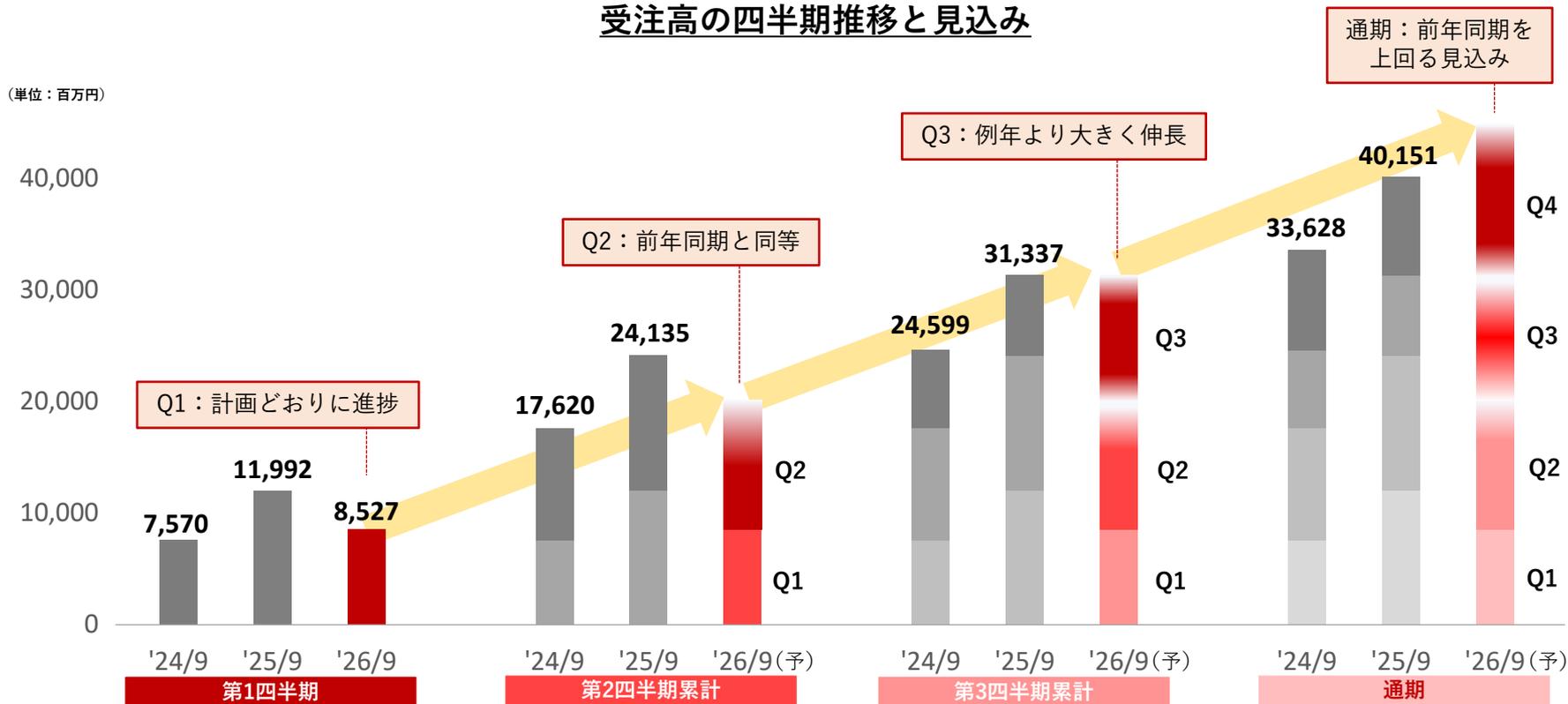
セグメント別 受注高／受注残高分析

(単位：百万円)		'25/9 Q1実績	'26/9 Q1実績	前年同期比		事業概況
				増減金額	増減率	
EMC／大型アンテナ	受注高	1,693	1,386	▲307	▲18.1%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中国市場でのEMC試験システムの受注が減少したことにより、受注高は減少 ■ 前期の受注が好調だったこともあり、前年同期に比べ受注残高は増加
	受注残高	3,456	3,613	+157	+4.5%	
その他事業	受注高	3,964	1,545	▲2,419	▲61.0%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 受注高は、防衛／海洋事業で前年同期は最大規模の受注案件があり、当期は減少。ソフトウェア開発支援事業は前年同期並みで推移 ■ 受注残高は防衛／海洋事業、ソフトウェア開発支援事業、その他事業のそれぞれで増加
	受注残高	6,384	8,878	+2,494	+39.1%	
(うち防衛／海洋)	受注高	3,354	668	▲2,686	▲80.1%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 前年同期に受注した最大規模の大型案件を除けば、受注高は前年同期に比べ増加
	受注残高	5,250	6,066	+816	+15.6%	

2026年9月期 受注高の見通し

受注高の四半期推移と見込み

(単位：百万円)



3. 2026年9月期 通期業績予想

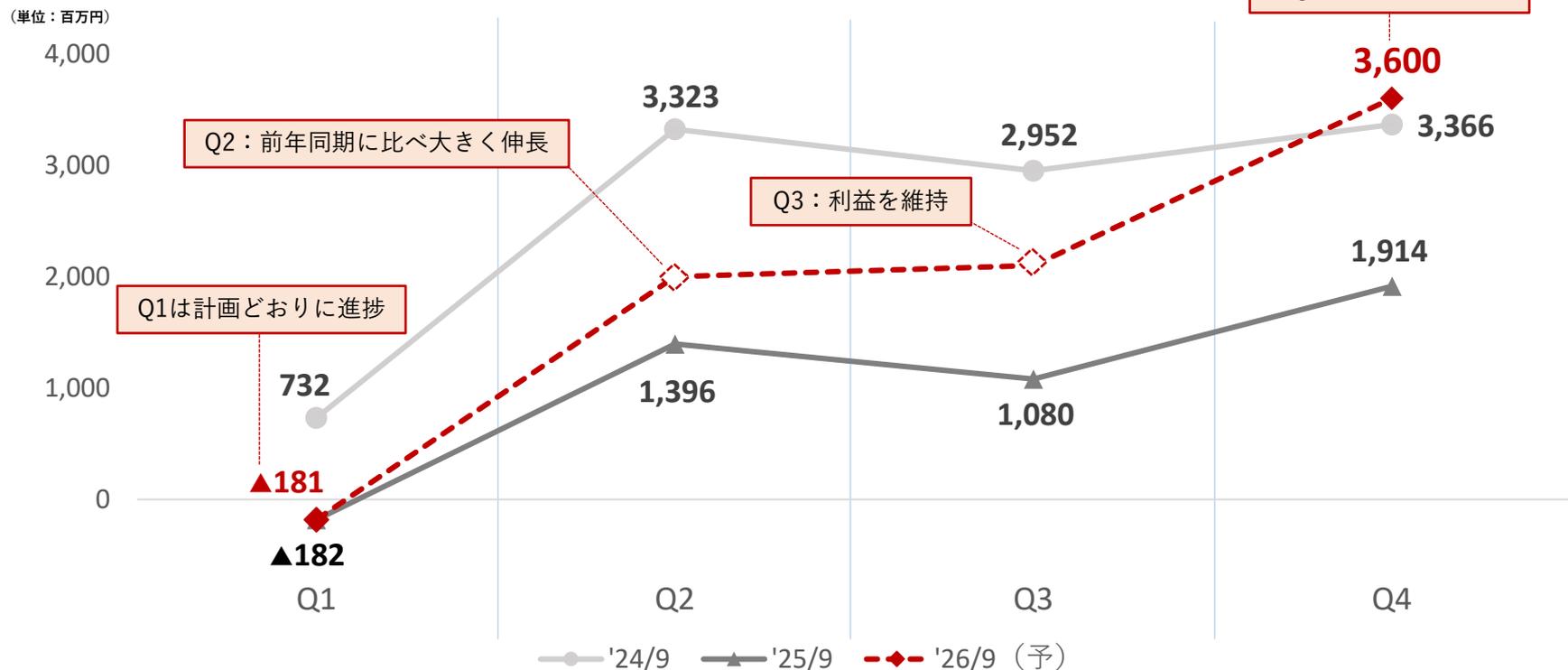
好調な受注と受注残高の積み上げにより、今期は大幅な増収増益を予想

- ・好業績であった2024年9月期を上回り、売上高は過去最高、営業利益も過去20年で最高となる見込み
- ・Q1の進捗は計画どおりであり、今後は継続的に売上・利益が伸長していく見込み

(単位：百万円)	2024年9月期 実績	2025年9月期 実績	2026年9月期 予想	前期比	
				増減金額	増減率
売上高	35,042	32,559	39,000	+6,441	+19.8%
営業利益	3,366	1,914	3,600	+1,686	+88.0%
営業利益率	9.6%	5.9%	9.2%	+3.3P	-
経常利益	3,375	1,985	3,700	+1,715	+86.4%
当期純利益	2,522	1,195	2,600	+1,405	+117.5%

2026年9月期 営業利益の見通し

営業利益の四半期推移と見込み



4. 株主還元

株主還元

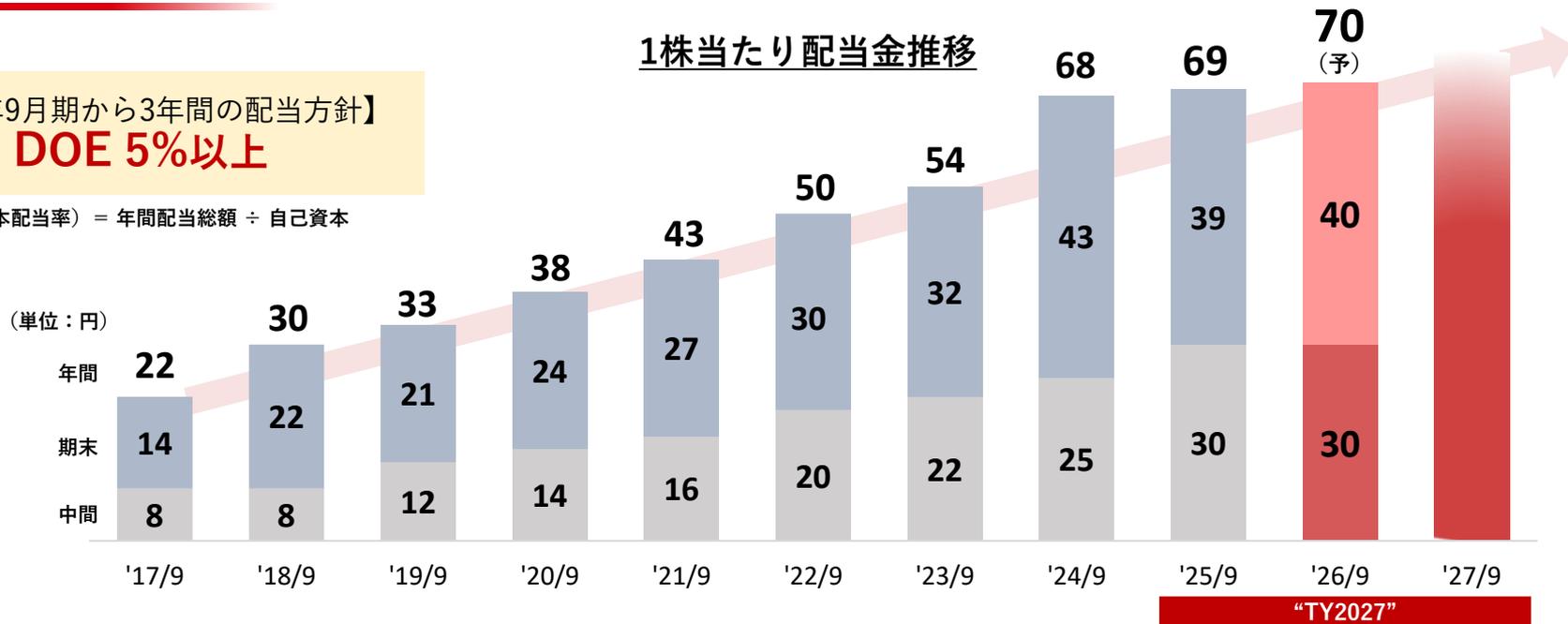
2026年9月期の配当は過去最高の1株当たり70円を予定
“TY2027”で10年連続増配を実現し、その後も増配を目指す

10年連続増配予定

【2025年9月期から3年間の配当方針】

DOE 5%以上

※DOE（自己資本配当率）= 年間配当総額 ÷ 自己資本



・ 自己株式の取得は今後も成長投資とのバランスを見ながら適宜検討

5. 中期経営計画“TY2027”の進捗

中期経営計画“TY2027”（2025年9月期～2027年9月期）の経営指標と戦略

■ 経営指標

売上高 **450**億円 + α （新規M&A合算で**500**億円以上）

営業利益 **45**億円

ROE **11%**

■ 事業戦略

1. 注力すべき事業分野

- ・ 防衛ビジネス
- ・ 脱炭素／エネルギービジネス
- ・ 先進モビリティビジネス

2. 高付加価値の提供による差別化

- ・ リカーリングビジネスのさらなる拡大
- ・ 自社開発製品の事業拡大

3. 海外事業の拡大

- ・ 海外売上を増加させるための拠点設置

4. 成長戦略を加速するM&A、新事業

■ 財務・資本戦略

■ サステナビリティ経営

4. 成長戦略を加速するM&A、新事業

ソニックガード株式会社を子会社化

- ・ 2026年1月、官公庁・自治体向けに遠隔監視システムや録音・録画装置を主力製品として製造・販売する電子装置メーカー「**ソニックガード株式会社**」の**全株式を取得し、子会社化**
- ・ 中期経営計画“TY2027”で情報通信事業が注力する「映像ソリューション」の拡充や、手薄であった**官公庁・自治体への販売を強化**するものであり、既存オリジナル製品（モバイルマッピングシステム、パケットキャプチャシステム「SYNESIS」）とのクロスセルを狙う
- ・ ソニックガードの製品企画力と当社が持つICT技術の融合によって新製品を開発し、**顧客のデジタル変革（DX/AI）に向けたソリューションを提供**
- ・ “TY2027”では最終年度（2027年9月期）に、新規M&Aによって50億円以上の売上増を掲げており、引き続き**大型M&Aの実現を目指す**

■ソニックガード 会社概要



所在地	神奈川県横浜市
事業内容	電子装置、周辺応用電子機器の設計・開発・製造・販売
資本金	40百万円
設立年	2002年
売上高	1,085百万円（2025年11月期）
営業利益	212百万円（2025年11月期）
取得価額	770百万円

1. 注力すべき事業分野（先進モビリティビジネス）

3. 海外事業の拡大

Rototestドイツを設立し、テストラボを開設

- ・ AD/ADAS※開発向け評価システムを製造するスウェーデン子会社Rototest International ABの販売子会社 **Rototest Deutschland GmbH（以下Rototestドイツ）**を2026年1月に設立し、併せてテストラボを開設
- ・ 今回開設したテストラボでは、「ROTOTEST® Energy™」と各種シミュレーターを組み合わせたVILS統合システムに実車を接続し、急ブレーキや操舵などのさまざまな挙動を再現した試験が可能。これにより、**AD/ADAS開発に必要な高度な性能評価試験サービスを提供**し、自動車メーカーや自動車部品メーカー各社のニーズに対応
- ・ Audi、Volkswagen、Porsche、BMW、Mercedes-Benz等ドイツの主要自動車メーカーや日系メーカーの現地拠点などをターゲットに、販売および受託試験の受注を目指す

※AD＝自動運転（Autonomous Driving）、ADAS＝先進運転支援システム（Advanced Driver-Assistance Systems）



開設したRototestドイツのテストラボ

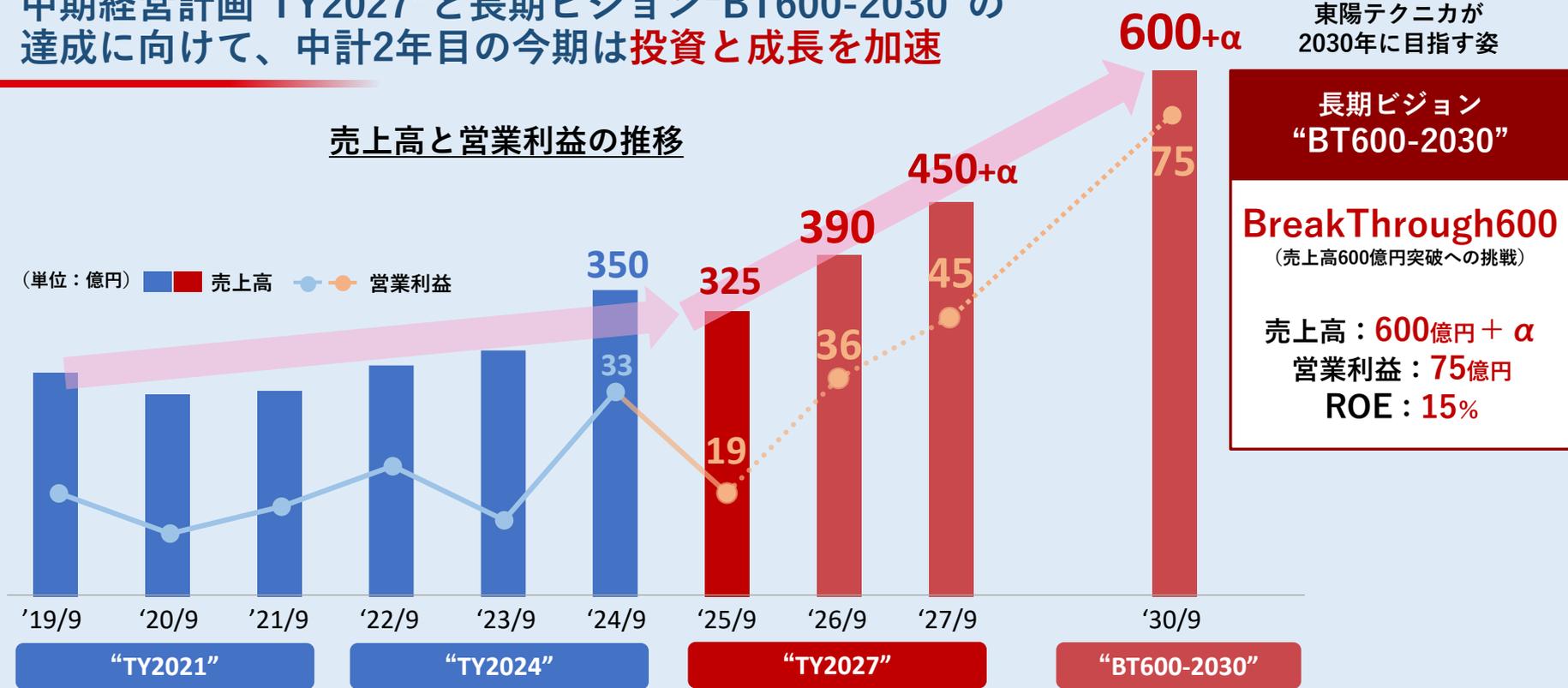


テストラボの「ROTOTEST® Energy™」

中期経営計画“TY2027”と長期ビジョン“BT600-2030”の達成に向けて、中計2年目の今期は**投資と成長を加速**

売上高と営業利益の推移

(単位：億円) ■ 売上高 ● 営業利益



6. 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けて

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

資本コストについて

- 今期のROEは8.9%を見込み、成長戦略の推進によってさらなるROE向上とエクイティスプレッドの拡大を目指していく

2027年9月期のKPI **ROE 11%**

- 現在の株主資本コストは 6.1%~6.5%と認識 (CAPM※1、益利回り※2から算出)

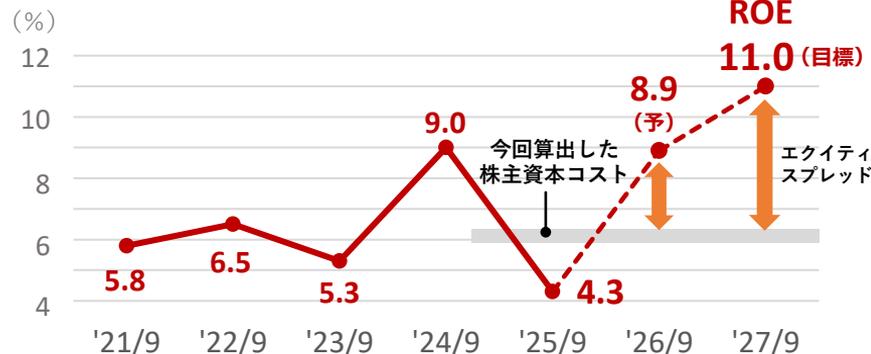
株価について

- 右肩上がりに推移しており、20年ぶりの高値圏
- 次期TOPIXへの継続選定を目指し、引き続き株価の向上に努めていく

※1 CAPMは、リスクフリーレート（10年国債利回り：1.67%）+ β （ヒストリカルデータ60か月：0.81）×リスクプレミアム（ヒストリカル法とインプライド法の平均値：5.92%）で算出

※2 益利回りは2021年9月期～2024年9月期の期末平均PER16.3倍を逆数にして算出（2025年9月期の期末PERは極端に高いため除外）

ROEと株主資本コストの推移



株価の推移（月足）



IR ニュースメール

<https://www.toyo.co.jp/ir/mail-magazine/>



IRニュースメール
配信登録はこちら

当社のIR情報をタイムリーにメールでお届けいたします
ぜひご登録ください

IR サイト

<https://www.toyo.co.jp/ir/>



日興アイ・アールによる
全上場企業ホームページ
充実度ランキングで、総合部門
優良サイトに選定されました

企業ホームページ
優良サイト

2025
日興アイ・アール
総合部門

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

お問い合わせ先
株式会社東陽テクニカ
経営企画部
toyo-ir@toyo.co.jp

“はかる”技術で未来を創る

